2026 年末
第５回団交報告

JLUニュース

No 1103（18－14）
航空連 日本航空ユニオン
中央執行委員会
2026年 11月 23日

Tel：03-5756-8690 URL http://www.jlu.co.jp e-mail honbu@jlu.co.jp

年末交渉の主張が来春闘に必ずつながる

11 月 17 日 9:00～10:00、26 年末第５回目の団交を行いました。会社側は、大堀人財本部長を含む 10 人、組合側も佐藤委員長以下７人が出席しました。以下、団交ダイジェストです。

■大堀本部長の冒頭発言

日頃の安全運航および最高のサービスを提供するためにそれぞれの職場において、御尽力をいただいていることに感謝を申し上げます。これまでの交渉内容を踏まえて経営として再度検討いたしましたが、これまで団体交渉等で示した以上の回答を行う判断には至っておりません。本日の団体交渉においてもこれまでどおり、真摯に協議を行う考えに変わりはございません。回答につきましては、**整備本部から補足があります。**



健康診断後の対応を前向きに検討

整本 健康診断についていろいろと調整を進めてきましたが、来年度から生産体制の影響なども見ていかなければならないものの、**健康診断後の勤務、生産工数の配慮等を検証しています。**具体的にどうしていくかを現在検証しているところ。皆さんにお示し出来るような形で前向きに進めていることをお伝えさせていただきます。

組合 だいぶ前向きですか？

橋本総務部長 **前向きに検討していきたいと思います。お声をいただいたことについて真摯に検討させていただいております。**

外航受託 契約打ち切りも検討!?

整備本部に対し、人員と生産工数が合っていないことを主張し、外航受託をこれ以上増やさないというだけでなく、受託便そのものを減らす段階に来ていると指摘しました。

これに対し整本は、現在受託している便をすぐに打ち切ることはできないものの、実際に契約打ち切りに向けた交渉を進めているものがあり、来年の夏ダイヤから実施するケースもあると説明しました。ただし、対象は数社単位であり、全体を一気に大きく減らすものではないとしています。また、中国便の大幅な減少により、これまで中国路線に配置していた人員の工数に余裕が出ている部分もあるとの説明がありました。

来年の夏ダイヤに注目!

JAL の「RUNWAY 採用」は先進的な施策

前回の団交で化粧品会社 SHIRO の、内定後2年間は留学等の理由で入社を遅らせることができるインターバル採用の話を例に出したところ、JAL では最大1年間の「RUNWAY 採用」があるとの説明を受けました。27年卒の新入社員から対象となり、この制度のアイデアを形にしたのは、入社１年目の若手社員だったそうです。今年の2月末にプレスリリースされ、一部ネットニュースで紹介されていますが、社内ではあまり話題にならなかったため、大堀本部長も、打ち出し方が下手であることを認め、「下手なりに仕込みを考えている」と述べています。入社1年目の社員の声を柔軟に取り入れて実現できるのなら、幅広い世代からもアイデアを聞き、実現してもらいたいものです。

整備本部出席の団交で継続課題を追及

■首都圏の住宅価格が高騰　天王洲で働く人も転勤族も厳しい

東京都区部は住宅費が高い。JAL の羽田や天王洲で働く社員は、そのエリアに通える場所に住まざるを得ない。天王洲などで通常勤務をする社員には、住宅手当や首都圏手当のようなものが必要ではないか。



東京の物価が高いことは理解しているが、JAL は東京一括採用が基本で、東京をベースに賃金を作っているため、さらに上乗せする考えはない。

ライン整備などは 5 年サイクルで地方とベースを行き来する。持ち家を購入しても半分しか住めず、賃貸生活を続ける人も多い。社宅期限を延ばすことは検討しないのか。



地方での制度はこれまで拡充してきた。地方から戻った後の社宅期間についても、課題だと考えているが、現時点で具体的なものはない。

■兼務教官の待遇改善を求めている

兼務教官のサービス残業の問題と、シフト手当が無くなり年収が大幅に下がることについての課題が全然解決していない。



教官が予習・復習に付き添うことは理解しているが、時間外手当には業務指示が必要。確認したがサービス残業という認識はない。兼務教官を人事考課で評価することも含め、何が適正なのかを考えていないわけではない。今すぐ答えられることはないが、いただいた意見をもとに引き続き検討していきたい。

■役員対話の内容、変革推進委員会で話していることは組合が言ってきたこと

役員対話にあった意見の他には、組織風土への指摘がある。「立ち止まっていい」と言われてもできない。正しい仕事ができる環境を作ってほしい。



整備本部としては、まず現場が安心して判断でき、安全で安心な作業環境を作ることを重視したい。定時性は整備本部だけの問題ではなく、会社全体の課題。整備士が現場で苦労している状況をそのままにすることはない。他本部にも説明し、少しずつでも環境が良くなるように対応したい。

詳細は WEB で
組合員専用ページで限定公開

パスワード等お問い合わせは
公式 LINE から

【日本航空ユニオンニュース　1103(18－14)号】